

✈️ 海外生活 だより

シドニー事務所

赤ちゃん海外奮闘記 in Sydney

(財)自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐
迫田 明巳 (北海道鹿追町派遣)

不安いっぱい海外赴任

私は今年4月にクレアシドニー事務所に家族(妻と子ども)を連れて赴任しました。赴任前の心配事といえば、友達もいなく言葉も十分に通じない家族のことでした。赴任当時は、子どもは生後8か月、そして初めての子どもとあって、日本での子育てでさえ大変な時期でした。

そんな私の家族も、今ではシドニーでの生活にすっかり慣れ、毎日を楽しんでいます(本人から聞いたわけではありませんが、多分そうだと思います)。そんな南半球の異国の地に連れてこられた妻と赤ちゃんは、どのように生活に慣れていったのでしょうか？

きっかけはマザーズグループ

現地の日本人コミュニティサイトで、小さな子どもをもつお母さんグループの情報を見つけました。

「マザーズグループを開催しています♪大体、歩き始めるまでの赤ちゃんが集まり、シドニーでの子育てについて情報交換&交流の場となっています」

早速、妻は参加することにし、そこで2週間に一度、現地の子育てに関する情報を得たり、おしゃべりをして息抜き(夫に対する不満の?)をしたりしているようです。また、近所に住む日本人の方とも仲良くなり、平日に遊ぶママ友もできたようです。近所のコミュニティセンターの1室を借りているので、使用料として1人1回5ドル(約450円)がかかります。

妻と赤ちゃんの1週間

(1) 職業訓練学校(TAFE)

妻はママ友からさまざまな現地の子育て支援の情報を入手してきます。近所のTAFEと呼ばれる職業訓練学校(日本の専門学校みたいな位置付け)で、保育士や幼稚園の先生を目指す学生が、小さな子どもをもつ親向けに子育て支援のサービスを行っているというのです。ここでは、教室での授業のほかに、実習として実際に小さな子どもや親との接し方などを学ぶために、学校を開放しているとのこと。



みんなで輪になり「おうた」の時間

親にとっては約2時間のコースを4.5ドル(約400円)という安価な料金で利用でき、子どもにとってはたくさんの遊具でほかの子どもたちと遊ぶことができ、学生にとっては学校に通いながらインターンシップを行えるという「一石三鳥」の施設です。日本では、遊具やプレイグラウンドを備え、親と子どもに来てもらうという学校や実習のスタイルは、とても珍しいのではないのでしょうか。

妻は毎週火曜日の午後にTAFEに通っていま

す。2歳児以上の幼児向けには毎日（毎日60組程度の親子が参加）、それ以下の乳幼児向けには週一度（20組程度）行われているようです。

(2) コミュニティーセンター

毎週火曜日の午前中、妻は近所のコミュニティーセンターで行われる英会話レッスンに通っています。子どもを連れて参加することもできますし、日本人のお母さん方もたくさん参加しているようで、そこでまた友達の輪が広がるようです。

これは、移民のための地域定着サービスの一環として行われており、私が参加したときには、韓国やコロンビア

の方が参加していました（コロンビアのおじさんは、英語が全く話せないようですが、妻いわく、毎週すごく楽しそうだとのことです）。



誰にでも利用しやすい多言語表示

料金は90分のコースで3ドル（約270円）と格安で、地域のボランティアの方が先生を務めています。また、私の妻は参加していませんが、週4回、1回1時間半の子ども向けのプレイグループサービスも行っているようです（1回5ドル）。

(3) 教会

金曜日には、近所の教会で行われる「料理教室」に通っています。ここでは、子どもを託児することもでき、材料費として5ドル、託児料として5ドルの計10ドル（約900円）がかかります。

先生や託児の保育士のうち、半分が仕事として、半分がボランティアとして関わっており、ボランティアの保育士の場合は、資格は特段不要とのことでした。また、近所の方が不要になったおもちゃなどを寄付してくださるそうです。

私が見学に行ったときの保育士の方は、ご自身も小さな子どもがいるので、自分の子どもも一緒に連れてきて託児室で仕事をされていました。

(4) それ以外の日と週末の過ごし方

ここで紹介した施設に行かない日は、友達と近

所の公園に遊びに行くようです。公園はとても子どもにやさしく造られていると感じます。乳幼児向けの公園は鉄の柵で囲まれていることが多く、ペットの侵入や乳幼児がひとりで公園から離れられないようになっています。また、遊具の周りにはウッドチップが敷いてあり、万が一、落下しても安心です（少しだけですが）。ブランコも小さな赤ちゃんでも遊べるように設計されており、8～9か月で「ブランコで遊んできたよ」と聞いたときには驚きました。



乳幼児向け公園内のブランコ

週末になると、「今日はどこに行こうかなあ」と妻がプレッシャーをかけてきます。移動には、家族3人で公共交通機関を使うのですが、バスや電車にはベビーカーや車いす用の専用スペースが設けられていて、赤ちゃん連れでも気楽に公共交通機関を利用できます。日曜日には、子ども（15歳以下）を連れていくと、1人1日2.5ドル（約225円、4歳未満は無料）でシドニー市内と近郊の公共交通機関が乗り放題（Family Funday Sunday ticketと言います）になるため、財布を気にせず、どこまでも足を延ばすことができます。

コミュニティー全体で 子育てを支援

ここで紹介した施設は全て自宅から徒歩10分圏内にあります。TAFEの先生に「オーストラリアには、近所にたくさんの子育て支援施設がありますね」と話をすると、「この国では、3世代で暮らす家族がとても少ないので、コミュニティーや友達のネットワークなどで子育て支援をする必要が昔からあったのだと思います」と言っていました。

今では、妻の方が私よりたくさんの友達を作り、気さくなオージーや、ママ友に支えられながら生活を楽しみ、初めの頃は環境の変化に戸惑っていた子どもも、さまざまな背景を持つ子どもと遊びながら、日々たくましく成長しています。